

# 五戸移転まで規模維持

## 野辺地西高



記者会見で握手を交わす法官新一理事長（右）と若宮佳一町長＝29日、五戸町役場

【18ページに関連記事】  
八戸学院野辺地西高（野辺地町）の五戸町への移転について、学校法人光星学院（八戸市、法官新一理事長）と町は29日、町役場で記者会見を開いた。学院側は2027年4月に開校予定で、移転前まで現行の規模を維持しながら、生徒の募集を継続していくことを表明。校名やカリキュラム、移転先となる旧青森県立五戸高の環境整備などが未定となっており、近日中に準備委員会を発足させ、本格的な検討に入るという。

会見には、法官理事長と若宮佳一町長が出席し、移転を巡る経緯などを明らかにした。  
それによると、学院側は昨年、野辺地西高の八戸学院光星高（八戸市）への統合が白紙になった後、学校存続を望む保護者らによる「野辺地西高を考える会」が立ち上がり、対話を重ねてきた。同会からは特にサッカー部に対する存続要望が強かったという。  
一方、2年前に閉校となった旧五戸高の利活用を模索していた町は今年4月、学院側に接触。7月に正式に誘致に関する要望書を提出し、学院側が今月27日に開いた臨時理事会で、移転方針が了承された。  
法官理事長は「野辺地西高の歴史と伝統を大切にしながら、新しい五戸での学校を作る」、若宮町長は「青森教育のさらなる発展のために努力することを誓う」とそれぞれ意気込みを示した。  
現段階では、移転前まで

## 27年4月開校 近く準備委発足

### 八戸学院野辺地西高の五戸町移転のポイント

- 2027年4月開校
- 生徒募集は移転前提で継続
- サッカー部を核に生徒を募集
- 移転前は1学年定員100人を維持
- 準備委員会を設置（校名や運営体制を検討）
- 学科や移転後の定員も検討対象

募集定員を変えない方針。25年度の入学者は1、2年は野辺地西高で学び、3

年時は移転先で学校生活を送り、卒業することになる。学院側は「五戸に移転ことを前提に受験、入学してもらう。混乱がないように丁寧に説明していきたい」としている。  
カリキュラムを巡っては、1973年に光星学院野辺地工業高として開校後の名残が現在もあるが、法官理事長は「就職希望が減り、今はスポーツを通じた進学率が高いのが実態だ」と述べ、移転を機に見直す考えを示した。  
新たに発足する準備委では、通学方法や町との連携といった移転を巡る諸課題について検討する。  
（田村純也）